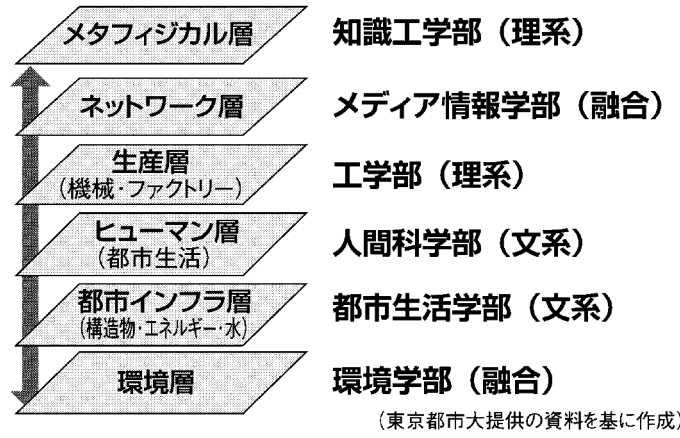


“未来都市東京”に向けた都市大の研究基盤



東京都市大、研究力を強化

“未来都市東京”に向け

東京都市大学は、未来都市東京の課題解決に向けて、全学の研究力強化に乗り出す。中核となる「総合研究所」を2018年度に文系の等々力キャンパス(世田谷区)から、理系の世田谷キャンパス(同)の新棟に移転し、理系の学部・大学院教育との相乗効果を高める。これに先立ち16年度は研究の芽を外部資金獲得につなげる2つの研究費支援制度を創設。環境・エネルギーなどの分野で東急グループ各社との産学連携も強化していく。

東京都市大が18年度。ほかに工学系の歴史に世田谷キャンパスに史的な資料展示での利開設する新棟は、4階用など想定している。建て延べ床面積8000平方メートル。この1フロアを総合研究所が使用。同大はここ数年、総合研究所の刷新に取り

組んできた。年間予算3000万円以上の外部資金を活用した大型の研究プロジェクトを総研の下に発足。4月には「地盤環境工学研究センター」を新設し、計5センターの体制とした。

これらのセンターは時代のニーズに対応し、柔軟に組み替える。研究テーマを学内で継続的に育てるため、学内公募の2制度を始める。その一つが若手の「萌芽研究」を支援する「機能試作研究」で、1件当たり300万円の研究予算で近く開始する。さらに学長のリーダーシップに基づいて優先課題として取り組む「学長特別研究」を秋に始めることを検討している。

同大は今春、文系と理系、文理融合の計6学部に通ずる研究コングレートを打ち出した。東京急行電鉄や東急グループの一員として、東京急行電鉄や東急不動産ホールディングスなどの連携を強め、研究力を一段と高めていく計画だ。